

実践校に関する事項

| 学校区分 | 学校名 | 学校長名 |
|--|-------------|----------|
| 高等学校 | 和歌山県立熊野高等学校 | 鈴木 孝夫 |
| 学校所在地 | | |
| 〒649-2195 TEL 0739(47)1004 FAX 0739(47)4200 | | |
| 担当者名 | | 役職名・担当教科 |
| 田城賢司／酒井久視／宮地良斉／後藤誠弥 | | 教諭・地歴公民科 |

〔学校の概要〕

本校は和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、古道が本格的な山道〔中辺路〕に臨むところでもある。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、改めてその価値を再認識している。

本校は林業学校を前身とし、現在、看護科・総合学科の2科が設置されている。

純朴でどの子もよくあいさつをし、部活動に積極的である。

また、町内唯一の高校であることから、隣接の上富田中学校とは授業参観交流(教員)や校歌合唱交流を行い、上富田町とは学校クラブ サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、地域との関わりが深い学校である。

なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。

研究実践に関する事項

| 対象者児童・生徒 | 学習支援者等(延人数) | 主な活動場所 |
|-------------|-------------|--------|
| 学年2・3年生 60名 | 1名 職員 4名 | 本校会議室 |

実践研究テーマ

紀南地方の歴史と文化ー世界遺産・熊野古道を知るー

| 実践教科等名 | 単元名 |
|---------------|-----------|
| 社会文化研究(地歴公民科) | 世界遺産・熊野古道 |

〔キーワード〕 世界遺産 熊野古道 情報発信 地域 観光

〔単元目標〕

- (1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。
- (2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。
- (3)現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生の視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。
- (4)古道パンフ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。

〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕

全体 50 時間 (「世界遺産・熊野古道」15時間)

〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕

和歌山県世界遺産センター フィールドワーク事前学習 講師
熊野古道フィールドワーク 講師・ガイド

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

| | 主な学習活動 | 学習への支援 | 評価方法等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 世界遺産について 世界遺産とは何か・日本の世界遺産について、ワークシートをもとに学習した。日本の世界遺産についてはweb検索を中心に調べ学習を行った。 | ワーク時における巡回指導を行うとともに、本校が立地する上富田町内にも世界遺産があることにも触れ、学習の動機づけを行い、活発な学習を促した。 | 〔関心・意欲〕 グループワークへの参加・ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート |
| 2 | 熊野古道の魅力 どうして熊野古道が古来より人々の心を惹きつけてきたのかを Quiz 形式で学習した。 | 教員から出題する形式であった。グループで協力して解答するよう促すとともに、解説を減らし、問いそのものに向き合う時間を取った。 | 〔関心・意欲〕 Quiz への参加 |
| 3 | 熊野古道フィールドワーク事前学習 世界遺産センター職員の先生に熊野古道の持つ価値について、知識の面だけでなく、西洋と比較しながら日本の文化的な背景に迫って、お話しをしていただいた。 | | 〔関心・意欲〕 講義 〔知識・理解〕 講義 |
| 4 | 熊野古道フィールドワーク | 高校生自身が感じる熊野古道の魅力テーマに、和歌山県世界遺産マスターの方々のガイドのもと滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。 熊野古道パンフ作成のため、各自デジタルカメラを持ち、古道の魅力と感じるシーンを撮影した。 | 〔関心・意欲〕 〔思考・判断〕 観光からみた熊野古道の魅力を感じ、その発信のための情報を収集する。 |
| 5 | 熊野古道フォトエッセイ作製 | フィールドワークでの写真とインターネットでの調べ学習をもとに、生徒自身が感じた古道の魅力を発信するための古道パンフレットを作製した。 | 〔技能・表現〕 作製した古道パンフ |
| 6 | 古道パンフレット発表会 | 前時に作製した古道パンフの発表を行う。 | 〔知識・理解〕 〔思考・判断〕 〔技能・表現〕 パンフレット発表 |

〔単元学習の成果と課題〕

本単元は、年間の主要な学習主題の1つである。授業担当者からすれば、次世代育成事業の協力を得たルーチンワークとなっているが、生徒にとっては貴重な学習機会であることから、同形式で学習を行っている。
講義とフィールドワークをセットで実施することで、世界遺産の意義や熊野古道が世界遺産としてどのような価値を持つのかを知識と体験から学ぶことができた。知識については、定期考査とリンクさせることで定着をはかった。学習のまとめとして、古道パンフづくりを行った。フィールドワークは学んだ知識を確かめる機会であると同時に、カメラを使うことで、生徒自身や他の生徒が古道をどのような感性で捉えたのかをダイレクトに確かめることができる。
時数の関係で実現にいたっていないが、フィールドワークの解説を各グループに任せるなど、学習の成果をより実践的に活かせる場を設定していきたい。

〔世界遺産学習の効果〕

1年次では熊野古道ウォークを行っているが、おそらく多くの生徒は自然の豊かさだけを感じている。学習を通して古来から、そして外国からも人々を惹きつける力をもっている熊野古道について認識を新たにすることができた。全員という訳ではないが、古道を守り伝えることへ意識を持つ生徒も見られた。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

古道パンフレットについては、どうしても現地学習の感想文になってしまうため、課題設定に工夫が必要である。
前述の通り、選択科目「社会文化研究」の中で行っているため、時数の制約がある。上富田町内の八上王子・稲葉根王子が世界遺産に追加登録されていることから、1学期に行う地域調査を世界遺産に絞り、古道の情報発信や保全など、生徒がより主体的に熊野古道に関わる機会を増やしていきたい。

■熊野古道現地学習

13:35 滝尻王子
15:40 高原熊野神社

4班に分かれ、ガイドを受けながら歩く。
生徒は各自歩く中で印象に残るシーンを撮影した。

■古道パンフレット

各自が写真を取り、パンフレットづくりを行った。パンフと言いながら、エッセイ風の仕上がりとなっている。古道に関する情報は200字程度におさえ、写真の説明や感じたことを中心に記述している。

作品例



11月26日、熊野古道を歩いてきました。印象に残ったのは、写真にあるように、高くまっすぐに伸びた杉の木です。これは、山を下っているときに撮りました。写しきれいていませんが、横にもたくさんの同じ木が揃って生えていて、普段目にすることがない雄大な景色に感動しました。登っているときは、いろんな種類の木が生えていましたがどの木よりもまっすぐに綺麗でした。

登りは本当にしんどくて、木や葉っぱを見る余裕はあまりありませんでしたが、紅葉がきれいだったり、変わった形の木がたくさんありました。道の途中で、イノシシが土を掘った跡があったり、猿が栗をむいて食べた跡もありました。いろんな種類の鳥の鳴き声もして、野生動物を身近に感じました。

ガイドさんが古道に詳しくて面白い人で、木の名前や鳴いている動物の名前などを教えてくれたり、レポートの材料になることを教えてくれたりしました。雑談などもしながら、楽しく登ることができました。

帰ってきた後、写真を選ぶときに、何枚も撮ったのでかなり迷って杉の木の写真にしましたが、ガイドさんに教えてもらったことや、自分で見たものが沢山ありすぎて、全部写真と文にしたいぐらいでした。

歩き終わった後、連なった山々が広がっていて、達成感が大きかったです。かなり大変な量を歩きましたがあまりできる体験ではないし、山に囲まれた町でも山の中に入って勉強するのは、一年生の時の古道歩き以来だったので、あらためて登ることができて良かったです。



滝尻王子から高原熊野神社までを歩きました。滝尻王子から高原熊野神社までの距離は約6kmで、約3時間歩きました。古道に入るといきなり上りの道で大変でした。山道を登りきると山の上から綺麗な景色が見え中辺路を見渡すことができました。歩いている最中に紅葉が見えることもあってこの季節に来ることができてよかったです。

熊野古道は、平安時代からあると思うととても歴史を感じました。この写真は、木の根が階段になっているところです。ここを歩いた時に昔の人たちもこのような道をたくさん歩いていたのだと感じて写真を撮りました。景色は昔のように巨木などはないので違うと思うけれど、この道は変わってないし山の上から見える景色や季節によって変わる自然の景色に私たちと同じように感動していたのかなと思います。

私たちは最近このような山道を歩く機会がほとんどありません。いつもは平らな道や、自転車や車や電車などを使うことが多く、歩くことが少なくなってきました。だから、昔の人の苦勞も知らずに当たり前のように今の道を使ってきました。しかし、昔の人々は熊野に来るまでにも、このような山道を歩いてきて、さらに熊野古道を歩くのはとても大変なんだと気づきました。

今では、世界遺産に認定され日本人だけではなく外国人の観光客も熊野古道を登って昔からの日本の風景を楽しんでくれていると思います。そんな熊野古道をこれからもこのままの景色で守っていかたいと思います。